

令和6年度 第2回結城市子ども・子育て会議 議事録

日時 令和6年10月2日（水）

午後2時から

場所 結城市役所4階会議室

1 開会

2 あいさつ

3 議事

（1）結城市こども計画（第3期結城市子ども・子育て支援事業計画）について

事務局より、資料に基づき説明が行われた。委員からの質問・意見等は以下の通り。

稲葉会長 盛りだくさんの内容で非常によい言葉が並んでいるが、どの程度これを実践できるかが一番の問題である。アンケート結果から、行政としては結城市の現状をどのように捉えているのか。

事務局 全国的に少子化で子どもが少なくなっている中で、全体数としては少なくなっているが、支援が必要な子どもは多く、昔とは違う角度からの支援が必要な状況である。国からも子どもの支援に対する様々な施策があがっているので、それらを注視しながら、こども計画にも反映させていく必要があると考えている。計画が追いつくのか厳しい部分もあるが、子どもが一番幸せに暮らせる支援体制を整えていきたいと考えている。

荒井委員 P57の具体的な事業に第2子以降の助成があるが、第1子のカウントは保育所に入っている子どもなのか。上の子が小学生で下の子が保育園の場合は第2子にカウントされるのか。

事務局 小学3年生まではカウントされる。

荒井委員 境町でも同じ様な事業があるが、年齢制限は設けていない。結城市で実際に4人のお子さんがある家庭で該当しない家庭があった。せっかくの制度なのに当てはまらないと意味がないと思う。境町の子育て支援一覧はインパクトがあり、それを見てしまうと結城市が見劣りしてしまう。3人目以降の出産で出産奨励金総額50万円、最大3万円分の赤ちゃんの紙おむつのクーポン券を配布、給食費も無料となっており、境町の方が魅力的である。65歳以上の高齢者の人口は減少していないのに、若い人口が減少しているのは、他市の子育て支援が充実しているのでそちらに流れているのではないかと思う。

事務局 多子世帯の保育料の軽減に関しては、小学校3年生までを第1子とし、第3子に関しては無料としている。県の補助金もあり県と市で行っている事業だが、境町はふるさと納税の財源もあるので、財政力の違いがあると考えている。どこにお金をかけるのか、どのような事業につなぐのか、こ

の会議の中で実行可能な計画のためにご意見をいただきたい。

稲葉会長 境町の子どもの支援に目が向いているが、今の体制でふるさと納税の収益をあげるのは難しいという意見がある。

事務局 株式会社を市の外に作り、そこで循環しているという組織的な部分もある。

稲葉会長 中々成果が上がらないのが現状である。行政からの報告にもあるが、事業計画を立てても実行できないのは、他市とどういう部分に違いがあるのか。財政が一番関係していると思うが。

事務局 お金がかからない部分で頑張ることができれば一番よい。現行計画の事業評価はまだ記載できていないので、パブリックコメントの前までには記載する予定だが、他市との違いは見出せていないのが現状である。

高橋委員 P43 の子育て応援アプリについて、全く情報がこないの何のためのアプリなのかわからない、と登録している方からの声があがっている。上手く運用できていないのではないか。

事務局 利用されている方の声が一番なので担当課に伝える。

稲葉会長 健康増進課に情報として話をしてください。

白石委員 P12、P13 の児童人口の推移を見ると、結城市在住の0歳～5歳の日本人の人口は減少しているが、同じ年齢の外国籍の方が微増している。外国籍の方が住みやすい町ということだと思うが、企業を誘致したり、日本人の若い世帯が住みたくなるようなヒントを得ることができるのではないか。

事務局 1世帯あたりの子どもの人数が劇的に増えることは難しいが、世帯ごと結城市にきてもらえるような施策の方が人口減少に歯止めがかかる可能性があるので、様々な方策を考える必要がある。

稲葉会長 若い人に住んでもらうために古い住居を安く貸す等、市独自の手当がないことが大きいのではないか。

事務局 県の事業で移住手当はある。

稲葉会長 パンフレットを作って実施しているが今までの実績は1家族である。

事務局 働きやすい環境を整えて外国籍の方が住みやすくなればという気持ちもあるが、外国籍の方の納税率が低く、日本人は98%だが外国籍の方は70%台である。働き口として介護や病院関係で外国籍の方が働くことが増えているが、言語の問題、文化の問題があり、外国籍の方が働きやすいように支援をしてほしいという要望もある。小学校や保育園でも外国籍の子どもが増えている印象があるので、外国籍の子どもへの支援に対する意見等があればこども計画の中で検討していきたい。

白石委員 先ほどの意見は外国籍の方が増えていることをヒントにして、日本人の人口が増えるような施策を考える、という意味で申し上げた。

稲葉会長 言語の支援は日本語教室だけである。他市町村では、民間ボランティアが学校に入り先生の手助けをするというシステムがある。

事務局 ティームティーチングで勉強の支援は実施している。

塚越委員 城南小学校では外国籍の子どもを集めて授業を行っている。挨拶ができ

る、自分で善悪を判断できる、人の話を聞ける等、全て家庭教育が影響すると考えている。10年前から家庭教育に携わっているが、着座講習の人氣がなくなり去年は4校に減っている。家庭教育のペアトレが必要だったり、移住者は相談する人がいないので、生涯学習課や支援センターでは講習を実施している。女性の就業率が高くなり、子育て中も働いている方が多いので、支援センターでは0歳児が多くなっている。2歳児の無償化もあり、小さい頃から保育所に入れているので色々話を聞きたいという方が多い。コロナ禍前は、イヤイヤ期はどうしたらよいか、3歳児の扱い方がわからない、という母親が多かったが、現在は低年齢化、子育ての情報不足、相談相手がいらない、教えてくれる人がいない、その結果子どもに泣かれると虐待に繋がることがあるので、小さい頃から保育所、幼稚園で教えることができる機会が増えるとよいのではないかな。東京では費用がかかるが、結城市は無料で実施しているのでPRが必要だと考えている。

稲葉会長
事務局

気軽に相談できるような窓口になっているのか。

子ども家庭相談室、支援センター、各保育所、健康増進課でも実施している。

稲葉会長

保健センターのプロの先生に相談するよりも、支援センターの方が相談しやすいという話も聞く。

塚越委員

アンケート結果を見ても、支援センターを利用している人が少ない。知らない人も多くいるので、もっとPRが必要である。

稲葉会長

子育て支援センターも以前と活動内容が変化し、現在は子どもを預かったり多方面に活動するようになってきたので、もう少し窓口が広がれば利用者が増えると思う。情報が見えないのではないかな。

荒井委員

移住してきたが、子育て支援センターはママ友も多くいるので便利だと家内が話している。

稲葉会長

組織としては存在するが知らない人も多い。地下駐車場があるのでとてもよい場所だと思う。

高橋委員

外からきた身で何もわからない状態だったが、半年健診で子育て支援センターの先生から手紙をもらって初めて存在を知って、いまだに通っている。自分で調べるところまで気持ちが動かないこともあるので、半年健診等で知るきっかけを作れると良いのではないかな。

稲葉会長
事務局

結城市も色々実施しているが、市民一人一人に伝わっていない。

5か月児健診の受診率が98%なので、その際に必ず子育て支援センターの保育士が話をする機会がある。妊婦の時にはプレママツアーも実施しているが、きてくれる方もいればそうでない方もいる。

高橋委員

誰も知り合いがいなかった時期だったので、そこに行けば何かあるのではと重い腰をあげてやっと利用したが、その重い腰があがらない方もいると思う。

稲葉会長
事務局

情報センターはもっと情報を発信し、PRの方法を考える必要がある。

結城市では、令和3年に母子手帳に入るサイズの子育て支援ブックを作

成し、市民課や福祉課の窓口等で配布しているが、今年度、子ども福祉課や健康増進課等の内容を一つの冊子にまとめたものを発行できるよう取り組んでいる。5,000部を印刷予定だが、WEB版も作成する予定である。また、市政70周年に合わせ、子育て支援センターについて、市民から愛着を持ってもらえるような愛称を募集した。

稲葉会長 病児保育は結城市が先進的に開始したという経緯があるが、病後児保育との区別も必要ではないか。色々やっているはいるが、市民が知らないのが現状である。行政だけで考えるのではなく、民間の意見を聞いてはどうか。

高橋委員 インスタグラムはよく見ている。今のお母さんたちは全部インスタグラムから情報を得ているので、そこで発信すると良いのではないか。

山川委員 Yui Fam.でもインスタグラムの写真等を参考に冊子を作成しているので、配布をしながら紹介していきたいと考えている。

稲葉会長 設置場所をもっと増やせないか。

山川委員 現在はどこに設置しているのか。

事務局 福祉課や市民課の窓口である。

稲葉会長 情報センターにも設置した方がよい。

事務局 出張所等に配布はしているが、在庫状況は把握していない。

稲葉会長 在庫状況は把握した方がよい。

事務局 今年度発行する冊子をもっと広く設置していきたいと考えている。

荒井委員 ファミリー・サポート・センターに助けられた経験がある。第2子の時にファミリーサポートの方が自宅にきて食事を作ってくれたり、上の子どもを保育園に連れて行ってくれたり、とても便利な制度があるのでもっとアピールした方がよい。

稲葉会長 ファミリー・サポート・センターのスタッフは一生懸命やっているが、活動場所がない。現在はどこで活動しているのか。

事務局 サポートセンターと名前はついているが、相互扶助システムなので、支援者の自宅へ行ってサポートをしているが、家にきてもらうことに抵抗感がある方もいるので、その際は子育て支援センターや広場を利用してもらっている。産前・産後の場合は自宅でのサポートが多くなっている。

稲葉会長 自分から率先して利用すれば利用できる窓口やサービスは多いと思う。

事務局 お迎え等定期的に利用している方は多いが、まだ数は少ないのが現状である。

稲葉会長 保育園に入れるよりサポートセンターを利用した方が、安くて人間関係ができてよいという現場の声を聞く。

山川委員 サポートをしてくれる方の顔が見えるとよい。誰がきて何をしてくれるのかわからないので、インスタグラム等で紹介のようなものがあるとよい。

荒井委員 頼みづらい一つの要因になっている可能性はある。

事務局 ホームページにファミリー・サポートセンターの紹介等があるとよいか。

山川委員 文字の説明だけでなく、顔がかわるもの、感想等がわかるものがあると
より利用しやすいし、親しみやすいと思う。

(2) その他

委員からの質問・意見等は以下の通り。

稲葉会長 パブリック・コメントはどこに設置するのか。
事務局 各出張所、情報センター、庁舎の窓口にも設置する。
稲葉会長 パブリック・コメントのあとにもう一度会議はあるのか。
事務局 次回までに本日の素案の抜けている部分を埋め、皆さんにご意見をいた
だいたうえでパブリック・コメントにあげる流れである。
稲葉会長 第2次の振り返りも含め、結城市らしいものを作っていただきたい。
事務局 施策的には県との調整が出てくるので、県の施策を踏まえたうえで、で
きる範囲で結城市独自の内容を盛り込んでいきたいと考えてる。

4 閉会

以上